

国民の海への親しみ、 理解の向上について

目 次

1. 概要

- 海事思想普及の必要 1

2. 国民の海への親しみ、理解の現状

- 海に関する国民意識調査 2
- 出前講座でのアンケート 3

3. これまでの主な取り組み状況

- 首相官邸 4
- 国土交通省 5
- 海事広報協会 6
- 日本船主協会 7
- 内航海運組合総連合会、全日本海員組合、地方船員対策協議会 8

4. 問題点・背景・論点 9

海事思想普及の必要性

四面を海に囲まれた日本は、資源に乏しく国民生活に必要なエネルギーや食料等は外国からの輸入に頼らざるを得なく、その輸送の99.7%が外航船により、また、国内輸送においても約4割が内航船により運ばれており、安定的な海上輸送の確保は、我が国の経済と国民生活を支える極めて重要となっている。

しかしながら、その活動の場が港や洋上であることから、国民の目に触れる機会が乏しく、これほど重要な産業であるにもかかわらず、海運(海事産業)の重要性が理解されていないのが現状である。

一方、東日本大震災の際の津波被害は、未だ国民の記憶に新しく、海への恐怖心が完全に払拭されずに海への親近感が薄れたままになっている傾向にある。

◎海事思想普及の必要性

※海事思想：海の利用、海上交通、海洋環境、海上安全等、海に関する知識全般

- ①海事産業の成長には、人々の海事産業（海運・造船等）に対する深い理解と関心が必要
- ②若年層の海洋に関する関心が年々低下している状況から、特に海事産業の次世代を担う青少年の海への関心を高めることが必要（後継者の確保・育成）
- ③海洋観光分野の発展には、人々の海への安心感、親近感を高めることが必要



動く海洋教室での天測実習体験(青雲丸)



硯海丸船長とのインターネット回線通信
(大阪市昭和中学)



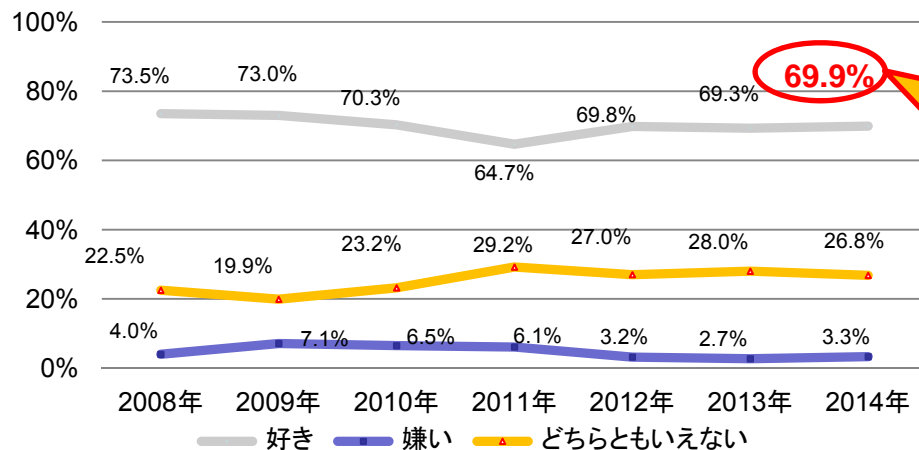
海王丸とエムイーエス由良造船
W見学会(和歌山県由良中学)

海に関する国民意識調査((公財)日本海事センター)

○海に対する好感度は、従来若い世代（10代）ほど低い傾向があったが、マリンレジャーの人気により上昇傾向にある。

○国民の「海」の捉え方がレジャー・観光に偏っており、海運の重要性については、十分に理解されていない。

●海は好きですか

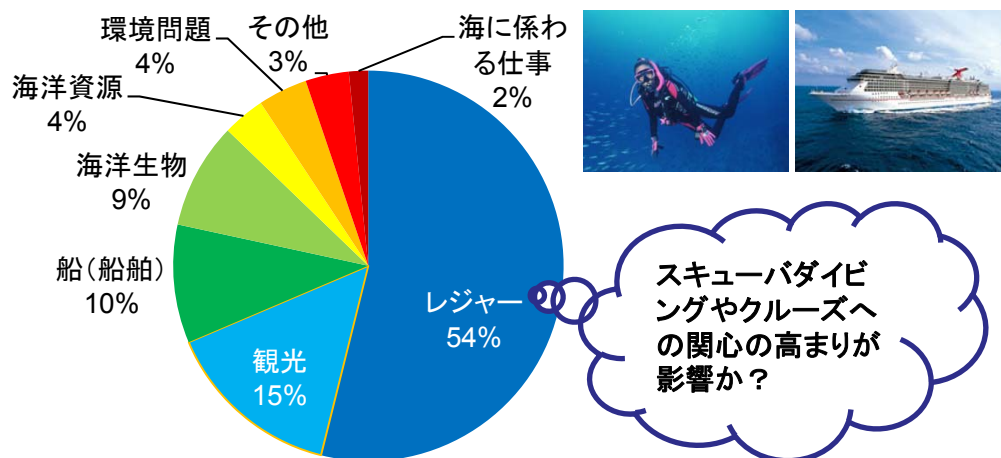


2013年：69.3%
2014年：69.9%
(0.6ポイント増)

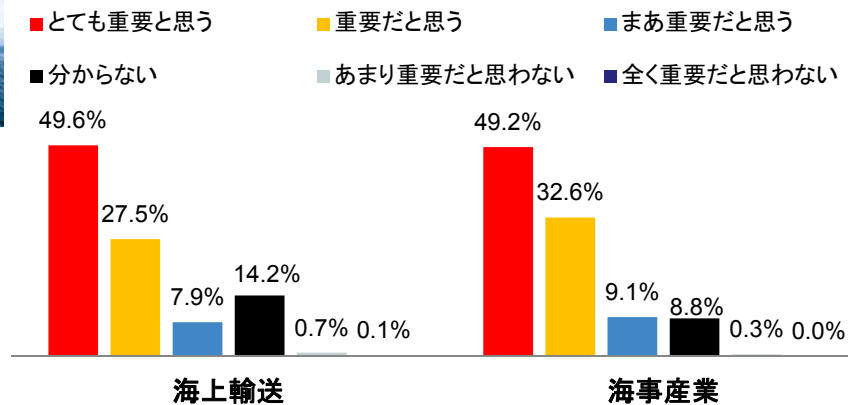
10代で「海が好き」と回答した人
2013年：56.9%
2014年：69.2% (12.3ポイント増)

- 海が好きな理由→
「落ち着く／癒される／心が和む等」
- 嫌いな理由→
「汚い／臭いが嫌／危険／津波が怖い等」

●日常生活の中で「海」と聞いて思い浮かべることは何か



●日本にとって、「海運(海上輸送)」と「海事産業」はどの程度重要だと思いますか

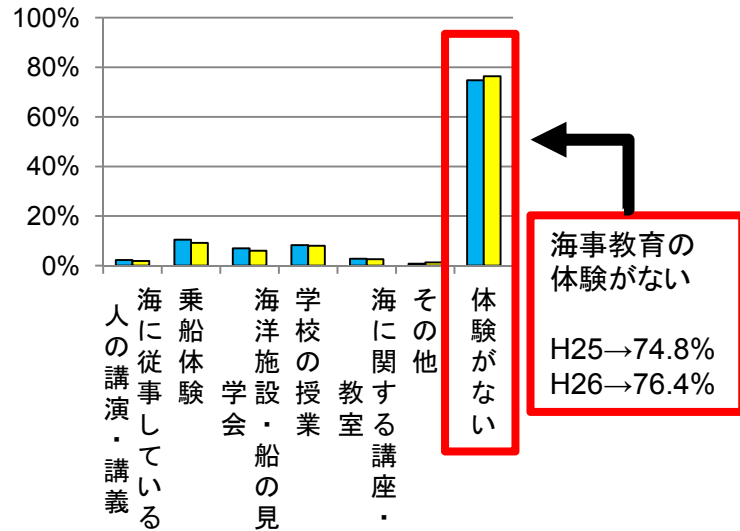


出前講座でのアンケート(近畿内航船員対策協議会)

- 中学生の海事に関する教育の現状や理解度を図る。
- 今後の学校教育の場において、海や船に興味を抱くような環境作りを構築する。

学校での海事教育

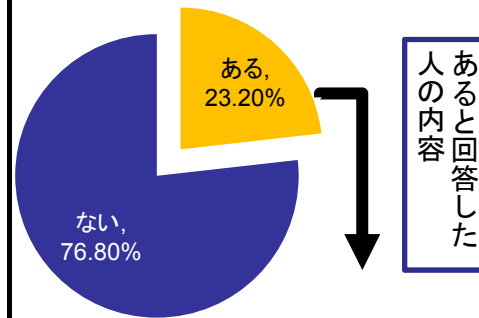
○体験したことのある海事教育



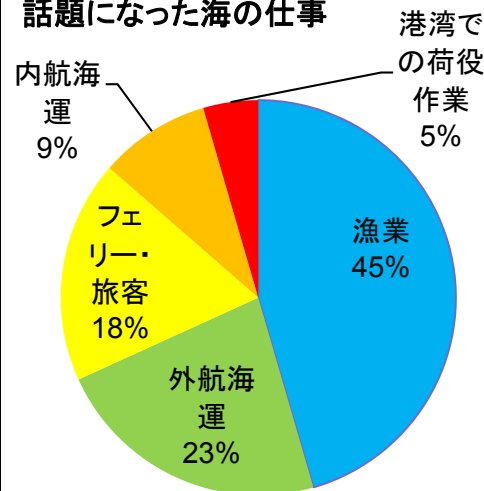
内航海運の仕事について、分かりやすく漫画で紹介しているパンフレット等の手軽さが、興味をもたれている。

海に関わる仕事について

○授業で海に関わる仕事について話題されることがあるか？



話題になった海の仕事



海に関する行事への参加

○海や船に関する行事、イベントなどの実施状況

実施あり……30.4%
実施なし……69.6%

実施したことがある内容

- 校外学習:カヌー、カッター体験
- 修学旅行:カヌー、ラフティング



これまでの主な取り組み状況(首相官邸) ～「海の日」関連～

○「海の日」を迎えるに当たっての内閣総理大臣メッセージ (平成18年度～)

○首相官邸「総理フェイスブック」で「海の日」関連メッセージ (本年度～)

「海の日」を迎えるに当たっての内閣総理大臣メッセージ

日本は、四方を海に囲まれた「海洋国家」です。我が国は、古来から、豊かな水産物等の海の恵みを得、また、資源に乏しい我が国としては、エネルギー資源や食料など、たくさんの生活物資を海を通じて確保しています。

我が国は古来より海を愛し、海に守られ発展を遂げてきた国です。海上交通の安全を確保し、領海と排他的経済水域等での海洋権益を守り、法の支配に基づく「開かれ安定した海洋」を次世代に引き継ぐことに真っ向から取り組んでいかなくてはなりません。人類の海を法の支配が貫徹する公共財として保ち続けることこそが、世界に共通する利益なのです。

この広い海からもたらされる資源は、日本の未来を切り拓く、大きな可能性を秘めています。特に、近年、エネルギー・鉱物資源に対する需要が世界的に拡大している中で、我が国においてもメタンハイドレート等の国産の海洋資源開発が進展しております。新たな海洋の役割はこれまで以上に重要となってきました。

このような観点から、本年7月4日、「大陸棚の延長に向けた今後の取組方針」を政府として決定し、国連海洋法条約の規定に基づき、我が国が天然資源の探査・開発を行うための主権的権利が及ぶ大陸棚を延長することとしました。今後も、我が国の海洋を活用して、海洋産業をはじめとする多様な経済活動を推進するべく、海域管理に積極的に取り組んでまいります。

また、海域の利用に当たっては、気候変動等の全地球的課題の解決に積極的に取り組み、開発と環境保全の調和を図らなければなりません。そのためにも、海洋及びその環境に関する教育や人材の育成の充実を図り、国民の皆様ひとりひとりが海洋及びその環境に対する深い理解と関心を持っていただくことが必要です。

私は「海の日」が国民の皆様にとって、海に親しみ、海の恩恵に感謝し、海を通して我が国の未来に思いを馳せる機会となることを切に希望いたします。

平成26年7月18日
内閣総理大臣・総合海洋政策本部長 安倍晋三



今日は「海の日」。海の恵みに感謝し、海の大切さを考える祝日です。これを機会に、海辺に出かけたり、船に乗ったりして、海に思いをほせてみませんか？私からも、「開かれ安定した海洋」を次世代に引き継ぐ思いを込めたメッセージを送ります。

(私のメッセージら及び楽しい関連イベントのリンクはこちら)

総理メッセージ: http://www.kantei.go.jp/jp/96_a/be/discourse/20140718uminohi.html

関連イベント:
http://www.mlit.go.jp/report/press/kaij01_hh_000260.html

いいね！を取り消す・コメントする・シェア

あなたと他10,722人が「いいね！」と言っています。

今後も「海の日」のパブリシティ向上のため、総合海洋政策本部と連携しつつ、政府公報、官邸の広報ツール等を最大限に活用し、総理を先頭にした国民への強い印象付けを行う。

これまでの主な取り組み状況(国土交通省)～海事全般～

- 海フェスタの開催：海に親しむ環境づくりを進めることを目的として実施
- 海洋立国推進功労者表彰：国民が海洋に関する理解を深める契機とすることを目的として実施
- 日本海洋少年団の活性化：将来の海洋国家日本を支える人材を育成するため、団員の数を「2020年の東京オリンピック・パラリンピックまでに会員1万人」を目標として全国的に活性化策を実施
- その他にも、海洋観光や海事産業の次世代の人材確保育成に向けた取り組みを実施

海フェスタ



平成26年の「海フェスタ」は京都舞鶴市を中心とした5市2町で開催されました。

海洋立国推進功労者表彰



科学技術、水産、海事、環境など海洋に関する幅広い分野における普及啓発、学術・研究、産業振興等において顕著な功績を挙げた個人・団体を毎年、海の日周辺において表彰している。

海洋少年団



上：舞鶴海洋少年団入団式

下：佐伯海洋少年団結団式



その他

霞ヶ関子供デー



上：海と船フェア
海洋写真コンテスト：右



これまでの主な取り組み状況((公社)日本海事広報協会)～海事全般～

- 全国中学生海の絵画コンクール：絵画作品を描くことによって海や船に対する関心を喚起させることを目的として実施。
- ジュニア・ SHIPPING・ジャーナリスト賞：海事産業に係る取材・調査を行い、新聞形式にまとめた作品を募集し、新聞の作成を通じて海や船への関心を高めるために実施。
- 青少年の海の教室：船舶・海洋博物館・水族館・港湾などの海事関係施設の見学会や船舶を利用した海洋沿岸の乗船ウォッチングなどを青少年が海事産業や海洋について認識を深めてもらうために全国で実施。
- 海事産業に関する副教材：「海運」「船」「港」の重要性を盛り込んだ副教材を港湾都市の社会科教師らの協力のもとに作成し授業に活用。

全国中学生海の絵画コンクール



第51回全国中学生海の絵画コンクール金賞受賞作品

国土交通省が後援する絵画コンクール「我ら海の子展」及び「全国中学生海の絵画コンクール」の国土交通大臣賞を大臣から授与



ジュニア・SHIPPING・ジャーナリスト賞



青少年の海の教室



全国11地区にある海事広報協会で、海洋環境の保全についての正しい認識や海に対する関心を高めるために実施。

副教材の作成



平成23年・24年は広島県呉市、平成25年・26年は岡山県倉敷市において副教材を用いた授業を実施。

これまでの主な取り組み状況 ((一社)日本船主協会) ~外航海運~

○小学校教師向け広報活動(施設見学・勉強会)

多くの小学校教師が海運業界に関心を持ってもらい、学校授業の中で海運の役割について児童と一緒に認識していただくことを期待して下記のイベント全国で実施している。

- ・出前講座 (「船員の職場環境」「海運の現況」)
- ・施設見学 (コンテナターミナル等)
- ・体験乗船



コンテナターミナルの視察



船員から海賊問題を説明

○ホームページの拡充・広報資料の作成・配布

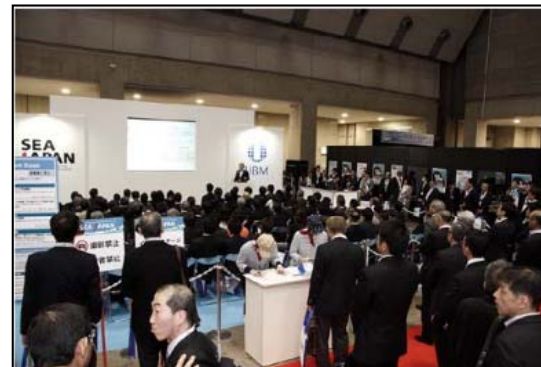


幅広い年齢層へ向けたHP



子供向けパンフレット
「船ってサイコー」

○外航海運セミナー



※SEA JAPANにて開催された外航セミナー

大人から子供向けの海運PRに

- ・最新のプレスリリース
- ・海賊レポート等の発信
- ・オピニオン(「せんきょう巻頭言」)の掲載
- ・子供向けのキッズコーナー 等

外航海運セミナー

国民向けに外航海運業の概要や役割、重要性とともに、業界を取り巻く課題等を分かりやすく説明し、理解をいただくことを目的として実施。

これまでの主な取り組み状況

内航海運組合総連合会

～内航海運～

●広報資料の作成・配布



内航海運の一般への広報活動や、内航船員求人活動のためのDVDビデオ、各種ポスター、リーフレット等広報資材の制作及び配布。

●地域内航船員対策協議会への助成

出前講座や体験乗船会、水産高校生インターンシップ等内航船員確保育成事業への助成。

全日本海員組合

～外航海運～

●J-CREWプロジェクト



船員の魅力を中心に船・船員に関する様々な情報を若者に積極的に伝えることを通して、外航日本人船員の人材確保を支援。

●広報資料の作成・配布



旬刊紙「船員新聞」、月刊誌「海員」等の定期刊行紙を発行

地方船員対策協議会

～内航海運～

●出前講座(主に中高生)



●体験乗船・動く海洋教室(主に中学生)



●ジョブカフェ(35歳未満社会人)



問題点・背景・論点

問題点

1. 国民の「海」の捉え方がレジャーに偏っており、海運・船舶・船員の重要性については、十分に理解されていない
2. 船に乗る機会や船員の仕事ぶりを見る機会が飛行機や鉄道に比べて圧倒的に少ない。
また、学校で学習する機会も少ないため船や海運への認識が低い
3. 海事思想の普及活動(海事広報)を複数の主体が、それぞれターゲットを絞り実施しているが、重複する部分もあることから、より効果的に発信できる可能性があるのではないか

背景

国をはじめ自治体や関係団体等は、それぞれ「海に対する国民の理解の増進」に取り組んでいるが、国民意識調査や出前講座のアンケートを見る限り、この点で目立った成果は見られない

論点

四面を海に囲まれ、資源に乏しい我が国の生命線ともいえる海運(海事産業)の現状及び重要性を理解してもらい、また、国民が海に親しむ機会を増やし、レジャーやクルーズ等の海洋観光分野を発展させるための、効果的な海事思想の普及活動(海事広報)とは何か？